

平和勢力の議席を伸ばすチャンス到来！！

—総選挙に期待—

東海村平和委員会 加藤 岑生

二代に亘る突然の政権放棄で始まった自民党の総裁選。国民にすっかり意図を見破られ、麻生内閣の支持率は朝日新聞48%とご祝儀相場どころか福田内閣誕生時の53%を下回る結果となった。そして発足5日目には失言3連発の中山国交相が辞任、さらなる支持率低下は必至、自公政権末期を象徴する無様な姿をさらけ出した。とはいえ解散総選挙は秒読みに入り、例によってマスメディアは2大政党による政権交代をあおりたてている。しかし、自民、民主両党の平和や暮らしの基本政策に大きく違いは無く、単なる政党の首のすげ換えでは今回の福田・麻生の交替劇同様、若干の手直しの競い合いに過ぎない。

今回の福田政権の崩壊の背景にマスコミはあまり触れていないが、海上自衛隊のインド洋沖の給油問題とイラクからの航空自衛隊の引き上げ問題で、アメリカの期待に答えられないということがあった。給油問題は、新テロ特措法（来年1月の期限切れ）の延長に目途が立たない。また航空自衛隊のイラクからの引き上げは、国連のイラク支援決議の期限切れに伴い、支援を続ける地位協定の締結の見通しも立たなく、自衛隊イラク派遣特措法の名古屋高裁の違憲判決に従わざるを得なかったことで行き詰り、政権を投げ出したのである。もちろん、7000以上の9条の会を中心とした憲法守れの平和勢力の運動が自公政権を追い詰め、崩壊させたと言っても過言ではない。

さて、アメリカのサブプライムローン焦げ付きをきっかけとして新自由主義のカジノ資本主義が崩壊し、世界恐慌に突入、証券投機で高収益を得てきた大銀行、大証券会社、世界の富裕層の投機集団ヘッジファンドがその損失の穴埋めに国民に犠牲を強いる策略が露になっている。かつて、軍部や軍事産業が恐慌による貧困の不满をアジア諸国への侵略戦争の道に導き、国民に塗炭の苦しみを与えた第二次世界大戦に思

いを巡らし、決してリストラ、首切り、消費税の増税などの弱いものいじめを許さず、戦争の道に進ませるはならない。

今回の選挙は国の方向をアメリカの言うがままの「戦争のできる国」への道から、“無駄な軍事費を削り、国民の生活と福祉・教育まもる道へ”と根本的にかえることである。このため、平和を愛するわれわれが平和勢力の議席を伸ばすために全力を尽くす、チャンス到来である。



08 日本平和大会 中止のお知らせ

福田前首相が突然の辞任を表明し、早期の解散総選挙が必死の情勢が生まれました。2008年日本平和大会実行委員会では、この情勢を検討し、平和大会の準備と総選挙の国民的な取り組みとの両立は困難であると判断し、今年の平和大会は中止されることを決断しました。

これは今回の総選挙が、国民の平和の要求を実現する上で、極めて重要な意義を持つ選挙であるとの認識に基づく決断です。

実行委員会では、このように今度の総選挙が今後の平和運動の前進にとって重大な意義をもつと考え、平和大会を中止せざるをえないと判断したものです。どうかこのことをご理解いただきたいと思ひます。

平和大会学習パンフレットも活用しての、平和の世論と運動を広げる諸活動をいっそう強め、総選挙での平和の審判に結びつけましょう。そして、総選挙で平和の要求を実現する新たな展望をつくりだし、来年の平和大会に向けて、平和運動をさらに大きく発展させましょう。

08 日本平和大会実行委員会

第4回常任理事会開催について

解散・総選挙も秒読みに入りましたが、アメリカ金融危機の外圧で政局は混迷を深めています。

秋の取り組み等については選挙がらみの事もあり、代表理事・事務局長に幅をもって決めさせて頂くと9月はじめの理事会で了解を得ていましたが、当初の予定どおり開催致します。

ご多忙とは思いますがご出席下さいますようお願い申し上げます。

と き：10月18日（土）午後2時～5時

ところ：いばらぎコープ水戸本部会議室

（赤塚北口5分、1階はでイケア菜の花館）

議 題：①秋の取り組みの中間的まとめ

②後半の取り組みを成功させるために

③仲間づくりについて

④その他

バーベキューで生気を養って

鹿行平和委員会総会

ここ1年は充実した取り組みをおこなってきた鹿行平和委員会が総会を開きます。今回の総会はこれまでとおもむきを変えて、総会+バーベキューという事になりました。風間事務局長が「俺に任せとけ」とい言わんばかりにご招待してくれる事になりました。

と き：10月12日（日）正午より

ところ：風間道夫 宅

第1部 総会

第2部 バーベキュー・カラオケ懇親会

平和かわら版

No.513
月3回 発行
2008.10.5

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



「ピースエッグ 2008in北海道」に参加して

県事務局 荻谷 哲生

今年のピースエッグは9/13～15の三日間、北海道の日高で開催されました。ピースエッグは、日本平和委員会と地域の青年実行委員会が開催する2泊3日の青年平和学校で、今年で18年目になります。1991年当時、湾岸戦争が起こり、「戦争と平和」への関心が高まる中、「自衛隊の国際貢献は必要ではないか？軍事力は必要ではないのか？」といった疑問が青年会員のなかにもあり、これに応えるため、従来の講義形式の学習だけではなく、それぞれの意見や思いを出し合い、話し合いを通して理解を深めるグループトーク形式を重視してきたそうです。今回も、初日の講義と2日目の分科会を軸に、合い間に多くの時間が、班に持ち帰ってのグループトークにあてられ、意見交流の場がしっかり確保されていました。実際、参加者の感想でも、「いろんな人の思いを聞けるからいいね」「問題の捉え方もそれぞれで、話すのがわくわくする」など、好評でした。私も、この「少人数の班という単位で3日間寝食を共にし、共同で取り組む」という事によって、それまで見知らぬ人同士だったのが自然と仲間意識を抱けるようになり、とても充実した3日間となりました。また、初日の日本平和委員会代表理事・内藤功さんの憲法が保障する「平和的

今回特に印象的だったのは、地元・北海道の青年たちの頑張りです。これだけの規模の企画を実現するのは相当大変だったろうと想像しますが、それを自分と同世代の青年たちが成し遂げている事に、率直に感心し、大いに刺激を受けました。これは、5年前から北海道平和委員会青年協議会を立ち上げ、平和行進や、ほぼ毎月ゲストを招いての講演など、多彩な平和活動に取り組んできた経験の賜物だと思います。平和に関心のある若者が集い、共に行動し、そして互いに認め合える場を、茨城にも作れたらばと思いました。今年もピースエッグは、「青年を主役に、平和を学ぶ、平和委員会の活動を知る、青年の平和運動のネットワークを作る」という目的を果たせたのではないのでしょうか。

今回送り出して頂き、このような貴重な体験をさせて頂きまして、本当にありがとうございました。

阿見町平和の会 秋の宣伝行動報告

阿見町平和の会 福田 正

県南1ブロック アンカー宣伝行動として、9月26日、阿見町一周の宣伝カーによる平和委員会からの訴えを挙行了しました。



演説する水野さん



班宣言を披露する参加者

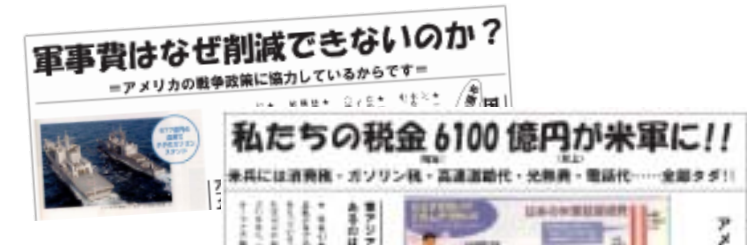
生存権」についてのお話や、分科会「アイヌ民族をめぐる私たちの問題」での北海道ウタリ協会江別支部長・清水裕二さんのお話など、講座の方でも、新たに関心を広げさせてもらえました。

PAC3が配備され、武器学校や燃料補給所など戦後広大な面積を防衛省が使用してきたが、政治的反対運動は皆無という土地柄での宣伝行動は、平和委員会の知名度アップに貢献した。

気がついたことですが、「街頭演説」をするのに駐車する場所は意外と少なかったが、このみちのベテランの水野さんの土地勘により6箇所にわたり「ご近所のみなさん、こちらは茨城県平和委員会です、-----」を無事果たしました。

茨城のチラシ

関東ブロック会議でも好評！



10月4～5日と、日本平和委員会の関東ブロック会議が横須賀市で開催されました。そのなかで群馬県伊勢崎市の平和委員会の方から、「この茨城のチラシ大変良くできています。伊勢崎でも利用させてもらって宜しいでしょうか」「どうぞ、どうぞ」と加藤さん。また、栃木県の方からも「うちでも使わせてください」と。なかなかの評判。翻って茨城の活用状況はいまいちという所です。会員のみなさんには全員にお渡ししてあります。先ずお読みいただき、そして活用できる枚数を各平和委員会ごとにまとめてください。

十月四、五日に横須賀市で開かれた関東ブロック会議に参加してきました。
神奈川県の仲間作りの成果が報告されました。米軍再編の座間新司令部移駐反対、相模原・座間の闘い、原子力空母母港化反対の闘いを背景とし、仲間が五百二十一名から八百一名に超過達成。さらに来年四月までに千名を目指す勢い。すごい！
対して茨城の仲間作りは各基礎組織で二名から五名以上の拡大をと。情勢に見合った仲間作りを神奈川に負けずにとガンバらなくちゃ。
(加)

事務局便り